

03 メルカンティ広場と通り

ドゥオーモのすぐそばにある小さいながら魅惑的なメルカンティ広場は、訪れる人を驚かせうっとりさせ、何世紀も前の世界へといたしません。中世の風情が今も息づく隠れ家のような静寂な一角で小休憩に最適な場所です。

この広場の建設は1228年に始まり、もともとは現在のメルカンティ通りも広場に含まれていました。メルカンティ通りが建設されたのは1867年のことでドゥオーモ広場とコルドーシオを接続することが目的でした。メルカンティ通りの右側には壮麗なジュレコンスルティ宮があります。これは1561年に建設が始まった建物でその40年後に13世紀の建造物「ナーポの塔」も組み入れられました。その後、1900年代初頭に現在の最終的な形となるまで幾度も建築的な変更が加えられました。

メルカンティ広場の出来た当初の姿を想像してみるにはほんの少しイマジネーションをこらしてくださいれば十分です。広場はもともと四角形をしており、執政長官の建物、牢屋、裁判所、そして商業組合など、前面に柱廊のある建造物に四方を囲まれていました。広場を囲む6つの大きな門から市内の主要区域へと続く通り、あるいは田園への通りが出発し、田園からは農産物などが運ばれてきたのです。この広場は中世における商売や市民生活の心臓部であったのです。

この広場に堂々と建つ中世の市庁舎であったラジョーネ宮はもともこの広場中心部にありました。同宮殿を建設中の1233年、「イノシシ」の形の刻まれたローマ時代の石が発見されました。これはミラノの伝説にまつわるもので、ミラノは、ガリア人のベッロヴェーソが夢のお告げで受けた通りに、このイノシシが体半分を毛に覆われた形が出てきた場所に、ミラノが創立されたといわれています。

この小さな石は、現在、ラジョーネ宮のメルカンティ通りに面した正面ファサードのアーチの中に埋められています。このイノシシはその後、ヴィスコンティ家によって「白蛇」に変更されるまでミラノのシンボルとなりました。一方、ラジョーネ宮のメルカンティ広場に面するアーチの柱上にはこの宮の建設を命じた執政長官、オールドラード・ダ・テッセーノの騎馬像のレリーフがあります。

広場の真ん中には16世紀の井戸がありますが、これはかつて「破産の石」という石の置かれていた場所を示しています。当時は破産宣告を受けたものは公衆の前で、この場所に座って裁判官の宣告を聴かなければなりません。井戸のすぐ前の建物であるオシイ家のロτζジャのバルコニーからその宣言が伝えられたのです。このロτζジャは1316年、マッテオ・ヴィスコンティのためにスコート・サン・ジミニャーノにより設計されたものです。

そのむかって左側には14世紀に建てられたアーチにかわって現在は1872年建設のネオゴシック様式建物が建っています。一方、むかって右側には元々は大変古い学校がありましたがその後17世紀半ばに建設された王立学校の建物となりました。オレフィチ通りに面するアーチの頭上にはラテン詩人アウソニウスの像がありますが、このアーチは広場に六つあった古い門の一つにあたります。

さらにアーチの右側には、19世紀末に建てられたパニガローラの家があります。ここはかつてはサン・ミケーレ・アル・ガッロ教会の後陣とメルカンティ大修道院があった場所です。小さな回廊の下にある16世紀に蘇る門や窓は元々この大修道院のものでした。